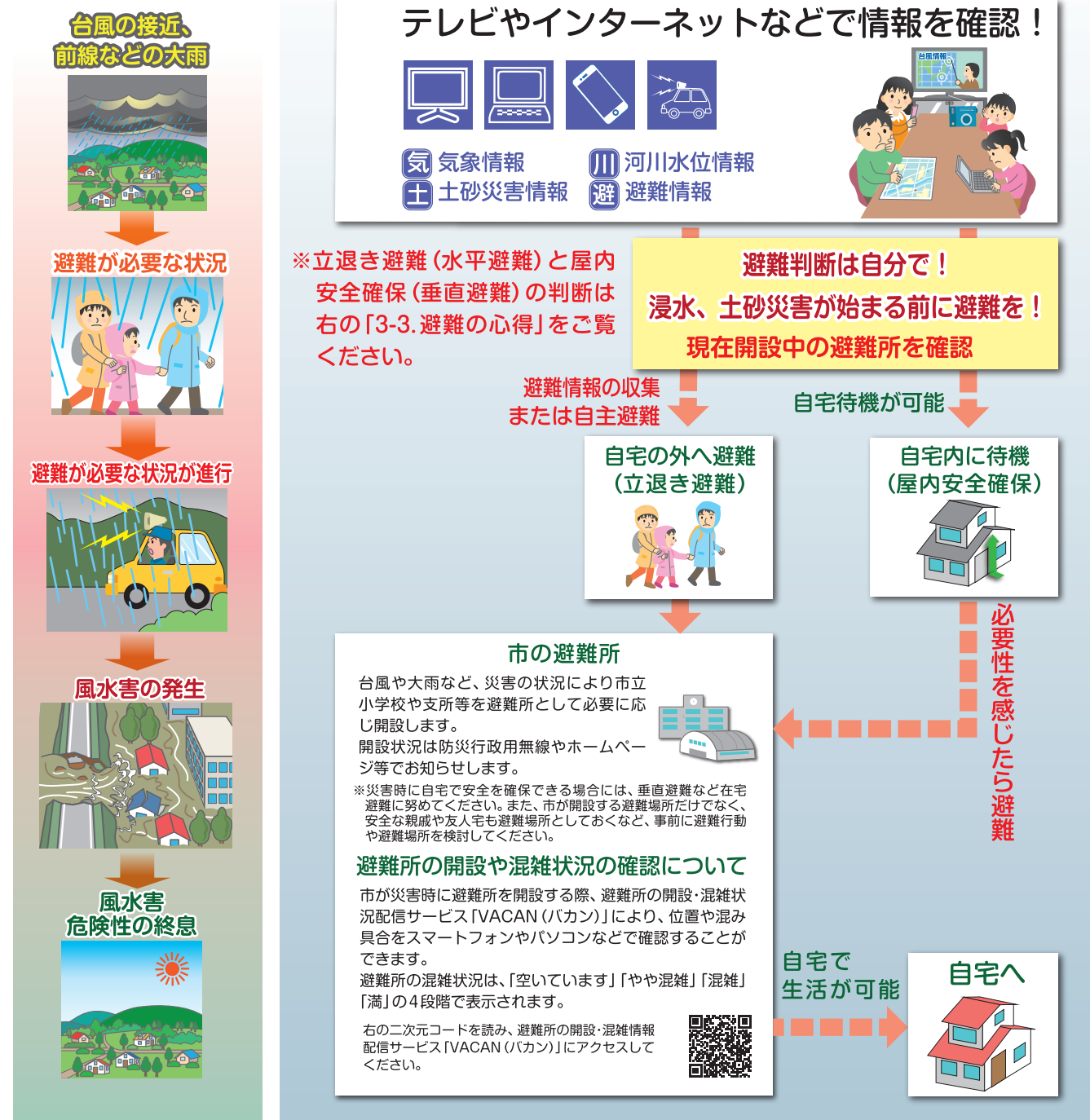


3-2. 風水害時に取るべき行動



3-3. 避難の心得

避難行動とは

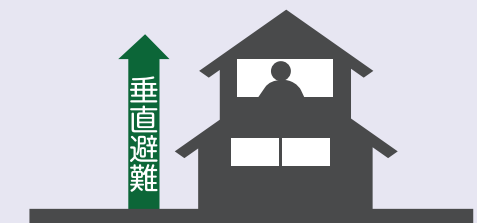
避難行動には、自宅外の避難場所や友人・知人宅、旅館やホテルなど、安全な場所へ移動する「立退き避難（水平避難）」と、自宅の2階など屋内でより安全な場所へ移動する「屋内安全確保（垂直避難）」があり、地域や状況によって避難の方法は異なります。特に、大雨や夜間における避難の場合は、自宅外への避難途中に被害にあう可能性があるため、避難するタイミングに応じて、最も適切な行動をとりましょう。

立退き避難（水平避難）



河川の近くや浸水深が大きくなる地域、土砂災害のおそれのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ立退き避難をしましょう。立退き避難（水平避難）は災害が発生する前に行うことが原則です。

屋内安全確保（垂直避難）



屋外へ出ることが危険な場合は、避難するタイミングに応じて自宅に留まり2階へ移動するなど、屋内安全確保（垂直避難）をしましょう。

立退き避難の心得



逃げ遅れたら

- 浸水が始まる前に避難を！
浸水が始まると、水深が浅くても流れの速さによっては足をすくわれます。また、側溝やマンホール、水路などが確認できず転落するおそれがあります。
- 避難判断は自分で！
気象庁や市からの避難情報などの防災情報をもとに、自主的な避難行動を心がけましょう。
- 移動手段は徒歩で！
車は故障や渋滞、災害の状況によっては動かなくなるおそれがあります。

注意すべき事項

- 危険な箇所には近づかない！
内水氾濫や洪水：河川付近、用水路、アンダーパス
土砂災害：急な斜面近く
高潮：海岸近くの低地、湾の奥部や河口部

その他避難時の留意事項

- 避難時は動きやすい服装で！
特に靴は歩きやすい運動靴で。長靴は水が入るとかえって歩きにくくなります。
- 移動は二人以上で！
一人だといざという時に助け合えません。
- 夜間の避難は要注意！
夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しておきましょう。
- 非常持出品を準備して避難！



コラム 家庭の浸水災害を軽減する

土のうが無くて、ゴミ袋やプランター、ポリタンク、レジャーシートなどの身近なものを使って、家の浸水を防ぐことができます。

ゴミ袋による簡易水のう

ゴミ袋を二重にし半分程度水を入れて、ダンボール箱に入れ連結します。



ポリタンクとレジャーシート

ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結します。



プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。

